

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190202192		
法人名	株式会社 フロンティア		
事業所名	グループホームウエルスタイル屯田2号館 1F		
所在地	札幌市北区屯田4条4丁目12-34		
自己評価作成日	令和7年1月31日	評価結果市町村受理日	令和7年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎日の体操とレクリエーション時間があり活動的に入居者様が暮らしている。 個別ケアを意識し行っている。入居者様のペースでの暮らしを大事にしている。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年2月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホームウエルスタイル屯田2号館」は、地下鉄麻生駅からバスで10分程の住宅地に立地している2階建て2ユニットの事業所である。近隣にはスーパーマーケットやコンビニエンスストア、郵便局があり、バス停にも近く生活の利便性が高い。建物内は居間と食堂が独立した明るく開放感のある造りで、干支や季節感のある装飾が施されている。前回の課題であった地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を全職員で作成し、共有しながら実践に向けて取り組んでいる。ケアマネジメントの面では、家族参加のサービス担当者会議や全職員でのケアカンファレンスを基に介護計画を作成し、具体的な支援内容を記載した週間サービス計画書も作成している。年間を通して外出する機会も多く、置置緑地や百合が原公園、和食レストランなどに全員で出かけたり、家族支援の下、馴染みの教会や地元の老人会にも参加している。管理者と計画作成担当者は、職員の意見や提案を積極的にケアや運営に取り入れて利用者の生活の質の向上を図るとともに、職員の働きやすい職場環境を整備しており離職率も低い事業所である。調理レクやおやつレク、スイーツバイキングなど食事が楽しめる行事も開催している。職員間のコミュニケーションも良く、家庭的な雰囲気の中穏やかに過ごすことができるグループホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	近隣の中学校との交流もあり、交流機会が増えつつある。 各ユニットに理念が掲示されており、入居様様が笑顔で生活できるように支援している。	事業所理念に「地域で暮らす人々と共に、やすらぎのある生活をおくる」という文言を新たに追加し、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念としている。玄関やユニットに掲示し、内部研修などで確認し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内や近隣の方の入居も増えている。 近所の方との関係は良好でありさつを行っている。 近所のローソンで、肉まんやクリスマスケーキなど交流し地域を意識した取り組みを行っている。	小学校の職業体験を受け入れ、リースや芋餅などを一緒に作りながら交流している。毎月、近所の方が音楽療法で来訪している。散歩で近隣住民と挨拶したり、地元の老人会に参加する利用者もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で包括と連携し情報を発信している。 近所のスーパーやコンビニを活用し事業所の理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加できないご家族様へは、面会時などに意見や要望を聞いている。運営状況、事故報告などをしっかり行い、対策を検討しサービスへつなげている。	地域包括支援センター職員や家族が参加し、2か月ごとに開催している。介護報酬の改定について説明した回もあるが、毎回事業所の報告が中心となっている。町内会活動がほとんど無く、地域代表の参加が難しい現状である。	広範囲での地域代表や近隣住民など、会議に参加してもらえる方を検討し、出席を依頼するよう期待したい。また、毎回テーマを設定して会議案内に載せ、参加できない家族の質問や意見なども会議に反映させるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括の方に参加して頂いている。介護保険での不明な点に関しては問い合わせを行い相談させて頂いている。	市役所に介護計画のモニタリング期間について聞いたり、マイナンバーカードの手続きに関して区役所に確認している。保護課の職員と情報交換することもある。役所とメールでのやり取りが多くなっているが、いつでも相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な会議や研修を行い、事例検討を行いながらケアに取り組んでいる。	マニュアルを整備して年2回勉強会を行い、禁止行為11項目も確認している。全体会議で委員会を3か月ごとに開催している。委員会議事録の参加者が委員のみになっていたため、今後は参加した全職員を記録する予定である。また、拘束の有無についても分かりやすく記録したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修、職員へのストレスに関しても面談を行い把握をしている。		

グループホームウエルスタイル屯田2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等に参加した職員からのフィードバックがされている。 定期的な研修がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容説明と契約日は別な日として説明行っている。 担当者が契約に関わっている。 理解・納得頂いた上で、署名・捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等にも職員から声掛けをさせて頂き、意見や要望の聞き取りを行っている。カンファレンス時・日々の業務時などで情報共有を行っている。	面会時や電話で利用者の様子を詳しく伝えて家族の要望や意見を聞き取り、タブレット端末に記録している。毎月「屯田2号館通信」を発行し、利用者が制作した作品なども一緒に家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月の一度の会議があり話しやすい環境である。 運営に関しての意見は求められていない。	普段から職員の意見や提案をケアや運営に反映させ、適切な支援につなげている。職員の提案で、利用者のケアを重視するため清掃時間帯などを変更している。管理者は年1回の個別面談の他、随時話をして職員の思いを聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直しは行われている。 スタッフの実績・勤務状況を見ながら年2回の賞与を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1度の法人外の研修受講の促進・補助金制度がある。 新人職員には定期的な面談と指導を行っている。 内部・外部の研修会に参加しやすい環境作りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の受講に、柔軟に対応している。 系列の職員とは、研修等で交流をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後には、関わりのお機会を多く持ち話しやすい環境作りを行っている。 混乱が最小限になるように寄り添っている。 アセスメントに基づき随時聞き取りをしながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や・事前の荷物搬入等で、その都度不安や要望の確認し声掛けおこなっている。 ご家族様からの要望や意見があった際は、職員で情報共有を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・相談時には施設外サービスも含め説明を行っている。必要としているケアを見極め入居可能か審査させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	制作作業・得意な作業を受け持ち作品などの取組みを行っている。 共同生活の場である認識はもち、家事やレクと一緒にできる環境作り・雰囲気作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設側とご家族の連携を行っている。 面会時の意見交換・情報を共有する機会を持っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の面会もご家族様を通してお勧めし馴染みの繋がりも大切にしている。 外出や美容室など行かれている入居者様もいらっしゃる。	近隣から入居した利用者も多く、幼馴染みや近所に住んでいた方が訪ねて来ることがある。外出行事で地域の和食レストランや近隣施設でのポニー見学、屯田公園でのお花見など馴染みの場所に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	協働作業を行い、理解と協力しあえる環境作りを意識して行っている。 職員の介入も行いながら関係性を構築している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の受入れ先の支援や、その後の様子について連携を行っている。 退去後は、管理者がフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの聞き取りはこまめに行っている。 アセスメントに基づき、個別対応を行っている。 日常の中で入居者様と関りをもち対応している。	会話から思いや意向を把握できる方が多いが、難しい場合は表情や仕草などから把握している。フェイスシートに趣味や嗜好を記録し、変化に応じて追記や更新を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルを職員が見やすい場所に置いておくと共に口頭での共有を行っている。 担当者と連携をとり情報交換を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に現状把握ができるように集中観察を行っている。その日の状態により支援を行っている。 カンファレンスを行い把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度話し合いの場があり支援の方向性を決め見直しを行っている。本人の思い・家族の思いを確認し評価を行っている。	家族とのサービス担当者会議や職員ケアカンファレンスを基に、3～6か月ごとに介護計画を作成している。週間サービス計画書に支援内容を詳細に記録している。日々の記録はタブレット端末で行っているが、介護計画に沿った記録は行えていない。	短期目標とサービス内容に番号を振り、介護計画に関する記録と分かるようにタブレット端末に記録し、介護計画の見直しや更新に活かすよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の観察・いつもと違う様子の時は情報共有を行っている。カンファレンスにて見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援内容の変更については、期間内で柔軟に対応している。可能な限り個別ニーズに対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族からも聞き取りを行い共有を図っている。 無理なく参加しやすい機会をつくりだせるよう検討を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診結果を家族と共有し、かかりつけ医とも方向性を話あっている。馴染みのかかりつけ医がいる場合は継続して頂いている。 情報共有を行っている。	ほとんどの方が訪問診療を受けているが、家族とかかりつけ医に通院している方もいる。家族と受診する時は、バイタル表や健康状態を書いた手紙を渡している。受診状況は「診療情報記録」に個別に記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師と情報共有を行い。申し送りや口頭などで入居者様の支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報共有や面談を早い段階で行い、退院後の受入れに関して取り組んでいる。 ソーシャルワーカーと連携をとり現状の様子など共有を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学时や問合せの際にもしっかりと伝えている。 定期的に今後のリスクなどはご家族様と共有を行っている。 契約時には必ず説明させて頂いている。	利用開始時に重度化と看取りに関する指針にそって説明しているが、現状として看取り対応は難しいことを伝えている。体調変化に応じて主治医と家族、事業所で方針を話し合っている。今後、看取り対応に向けての研修も行いたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置・救命講習など行っているが、実践力までは、まだまだ研修が必要である。 マニュアルの把握と施設内の勉強会を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っている。 (災害・避難誘導・BCP)	消防設備会社の協力を得て、年2回、昼夜の地震や火災を想定した避難訓練を実施しているが、地域住民の参加は得られていない。地域との協力体制の確認とケア別の個別対応についての話し合いも行っていない。	地域との協力体制を確認し、避難訓練への参加も依頼するよう期待したい。また、災害時のケア別の個別対応について話し合い、利用者の変化に応じて再確認するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーン、声掛け工夫等個別の対応を心がけている。スピーチロックにならぬよう心がけている。入浴や排泄時の対応は心がけている。	呼びかけを苗字に「さん」づけとし、希望があれば下の名前で呼ぶ場合もある。申し送りでは、本人にわからないよう番号などを使っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	セレクトメニューを利用し昼食会など定期的に行っている。 ご本人へ確認し希望を聞き徹底できる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先させずできる限りの対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に着る服を選んで頂いている。 2か月に1度のカットで本人がしたいヘアスタイルなどを聞き取り支援行っている。		

グループホームウエルスタイル屯田2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けも手伝って頂く事もある。家族の協力と共に、嗜好品の提供も支援している。食器拭きなど手伝って頂いている。水分・食事も管理行っている。	食材会社による献立で食事を提供している。利用者も盛り付けや食器拭きを手伝っている。調理レク、おやつレクの日を設けたり、和食やハンバーグのレストランでの外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が摂れない入居者様には、ゼリなど提供している。夕方に水分量を一度計算し不足の場合は提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の行っている。訪問歯科など利用し定期的に健診して頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を確認し、声掛け・誘導を行っている。排泄パターンを把握し個別に対応を行っている。	タブレット端末に排泄状況を記録し、パターンを把握している。誘導時の声かけは羞恥心に配慮している。昼夜ともベッドで排泄用品を交換する方もいるが、ほとんどの方が昼夜ともトイレで排泄できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動や水分促し、訪問診療時の相談を行い対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴で入浴ができ、本人の希望に沿って入浴日を変更する事ができる。	日曜日以外の午前の時間帯で、各利用者が週2回入浴している。リフトを使用し、全員が湯船に入ることができる。希望があれば同性介助とし、入浴剤を使ったり、一人ごとにお湯を入れ替え、心地よく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は個別に対応している。個々のペースにて日中の活動時間・休憩時間などを把握し声掛け行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を行っている為、薬局からの支援をうけ支援行っている。誤薬が内容マニュアルもあり、内服時にはダブルチェック等を行い対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや外出行事など行っている。日常では、食器拭きを行って頂き、役割が持てるように支援している。趣味なども把握し支援している。		

グループホームウエルスタイル屯田2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常会話の中から聞き取り行い、外出レクやご家族様へ伝え同行依頼お願いする時もある。庭でコーヒータイムしたりを外に出る機会を設けている。	日常的に庭で外気浴をしたり、周辺への散歩に行っている。車いすの方も一緒に散歩している。外出行事では、精米工場やホームセンターのフードコート、チョコレート店などに全員で出かけている。個別に、教会や温泉、地元の老人会に行く方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や訪問販売時に、本人希望があった際に支援できるように工夫している。ご家族より預かり金を金庫で保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など希望があれば支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内には、季節の装飾を行っている。居室には、自身の部屋が分かるように目印など設置し対応している。部屋の電気・温度・湿度にも配慮した空間作りを行っている。	共用空間は広く清潔で、色彩豊かな季節の装飾が飾られている。事務所やキッチンから全体が見渡しやすい間取りである。トイレや浴室の案内はイラストを添えたりドアの色を工夫し、利用者が認識しやすいようにしている。エアコンで温度を調整し快適に過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ一席が設置されており、背も足りが目隠しの役目にもなっている。食席でのトラブルがおきないよう工夫をし、職員が間に入りコミュニケーションが取れるような配慮もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みの物が置いてある。	居室にはクローゼットとベッドが予め備え付けられている。テレビや戸棚、椅子など好みの家具を持ち込んでいる。家族の写真や手作りカレンダーを飾ったり、自分の手書きのノートを置くなど、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや歩行器などを利用し安全に暮らせるよう支援している。可能な限り、自己決定ができるように促し等の支援を行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190202192		
法人名	株式会社 フロンティア		
事業所名	グループホームウエルスタイル屯田2号館 2F		
所在地	札幌市北区屯田4条4丁目12-34		
自己評価作成日	令和7年1月31日	評価結果市町村受理日	令和7年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく・楽しく・笑顔ある暮らしの理念を実現させる為、チームでの協力・情報共有をしながら日々の支援を行っており、毎日のレクリエーションや季節の行事、外出などに力を入れています。また、職員一人一人が入居者様と生活をともにしていることを意識し落ち着いた環境で居心地のよい安心・安全な生活を送れるよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和7年2月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に理念を掲示し、入社時や内部研修会などの機会に再度共有を行っています。地域で暮らす方の入居を積極的に行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学校からの職業体験の受け入れを行ったり、地域のお店に外食やスーパーの利用を行っています。また、入居後も老人会への参加をされている入居者様がいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域へ向けて情報を発信しており、福祉用具の使用方法などの研修も行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動や行事を写真や動画を通じて報告しており、事故への対策も伝えています。その際にはご家族等からのご意見を伺う場を設けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話やメールを利用し市町村との連絡を図っています。疑問に感じたことは市町村の担当の方に質問できる体制が整っています。また、運営推進会議にて地域包括センターの方との連携も行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に定期的な研修や啓発活動を行っており、困難な事例に関しては毎月のカンファレンスにて支援方法の検討を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に定期的な研修や啓発を行っており、職員間にてお互いの言動や行動に目を配り、声を掛け合っている。		

グループホームウエルスタイル屯田2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	E-ラーニングによる定期的な研修を行っており、必要な際に支援ができるよう、管理者中心に取り組んでいる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し同意をいただいている。その際には面談も行っており、不安や疑問点が話合える場を設けている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時には声をかけ、意見や要望の言いやすい関係性を築けるよう取り組みを行っている。また、頂いた意見や要望などは、会議での報告やiPad、苦情処理の書式にて職員へ周知・共有している。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談を行っているとともに、会議にて職員からの意見や要望を聞き、反映されている。また、常日頃、意見など言いやすい環境を作っている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境であるよう勤務時間や働き方の話し合いに応じてくれたり、時折エリアマネージャーの面談も開催されている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の研修参加や職員間でのケア技術や知識の共有を行っており、成長できる環境を整えている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の研修やリモートでの内部・外部研修に参加し、他施設の職員とのグループワークにて交流できる機会を持っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には情報収集を行い、面談を実施。その際に聞き取りを行っており、それに対し、当施設にてどのような支援が出来るかの検討を行い伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入居前の面談にてご家族からの意見や意向の聞き取りをおこなっている。また、当施設にてどのような取り組みを行っているかの説明も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や面談時、相談を受けた際には、内容を伺った際に当施設の説明とともに他の介護サービスについての説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活習慣を把握し、得意分野を活かした活動や、活動の内容についても意見を伺いながらの対応を行っている。また、生活リハビリとして調理や掃除を行って頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設だけで対応するのではなく、ご家族と相談の上対応の方針を決定しており、入居者様の希望時にご家族と電話でお話したり、外出での気分転換を行って頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の面会や手紙のやり取り、昔から利用している美容室や教会、老人会への参加を継続して頂けるよう外出の準備を支援している。また、外出時には移動時に馴染みの場所を通るという取り組みを行った。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の仲の良さだけでなく、相性や関係性を把握し席の配置を行っており、交流が円滑に行えるよう都度見守りをしながら職員が調整役となるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に相談があった際には相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や会話など、関わりの中で本人の希望や意向をくみ取れるよう努めている。困難な場合にはご家族にも伺い本人の立場になり検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には情報収集を行い、職員に周知を行っている。また、日々の関わりの中で得た情報は会議や記録にて共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を行うとともに、必要に応じ夜間の過ごし方を詳細に記せるよう別紙にて記録を取っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な職員間カンファレンスやご家族面会時や電話にて都度計画について相談しており、意見を伺い対応している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPadを使用した記録により、即座に職員全員が共有できる仕組みがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応ができるよう、カンファレンスにて事案を話し合ったり、希望が聞かれた際には都度管理者との相談も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動に参加されている入居者様や地域の公園にて福祉割引を利用し、外出活動を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時や必要に応じ往診を利用されるか、受診に行かれるか選んで頂いており、かかりつけ医と急な受診や往診、緊急時の対応にも即座に対応よう連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々口頭や申し送りの書式にて情報交換を行い、対応に対し相談や助言をもらえるよう連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報の提供を行っており、詳細な情報の作成も行っています。入院中にもご家族や病院と連絡をとり、状況の把握を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない為、重度化した際の対応について契約時に説明を行っており、状況に応じて早期にご家族との面談を行い、今後について話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修にて救急対応の研修を受けたり、定期的な内部研修を行っています。また、症状別のマニュアルを作成し緊急時に焦らず対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の訓練を行っています。また、実施後には振り返りを行っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けてはいるが、入居者様への伝わり方について振り返りを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらのペースを無理強いしないよう、希望を伺い対応しており、好きな飲み物を選んで頂いたり、気兼ねなく発言出来る環境作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活リズムを大切にし、活動への参加・不参加は希望を伺っており、活動内容の希望も伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服選びや化粧、整容が行えるよう個々にあった声掛けや道具の用意を支援している。		

グループホームウエルスタイル屯田2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症対策にて準備や片付けができない事があるが、特別食の提供や好みの食べ物をおやつとして提供したり楽しみとなるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、集計を毎日行っており、十分な摂取ができるよう能力に合わせた食事形態での提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施しており、道具の準備や支援方法は個別にて対応。必要に応じ歯科往診などの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分量の確認や排泄管理表による排泄パターンを把握し、身体能力に応じた支援にてトイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や適度な運動を実施しており、必要に応じかかりつけ医や看護師と連携を取り、排便コントロールを実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や気持ちに寄り添い、体調不良や気分が乗らない際には日にちや時間を変更し対応している。また、定期的な外出に合わせての入浴の設定を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良質な睡眠を確保できるような生活リズム作りを支援している。また、個々に合わせて温度調整や居室の調光を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報の確認を都度行っており、変更があった際には情報の共有を行っている。また状態の変化に気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や得意分野を把握し、負担にならない程度の作業を依頼し達成後には感謝を伝えている。		

グループホームウエルスタイル屯田2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に即座に対応は毎回は困難だが、日々の関わりから希望をくみ取り外出レクにつなげるよう努めている。また、四季を感じて頂けるような場所へ積極的に出かけるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な為、ご家族管理となることが多いが、訪問販売などの利用時には預かっているお金を使用して買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人からの電話を取り次いだり、希望があった際にはこちらからかけられるように努めている。また、定期的に文通をされている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾品を飾ったり、温度や湿度の調整を行っており、ドアの色分けにより場所がわかりやすい工夫をしている。またフロアに面したキッチンからは調理の音や香りなど、家庭的な雰囲気の中過ごしてもらえるような環境となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所を確保できるよう、キッチンカウンターの利用や一人掛けソファにて場所の確保を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の写真など馴染みの物を持ち込んで頂き、安心して過ごせる環境作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要部分に手摺を設置し、トイレや自室には目印をつけ、認識しやすい工夫を行っている。		